

6月



図書館だより

2025年6月号 NO. 427
北茨城市立図書館
茨城県北茨城市磯原町本町 2-5-16



4月の人事異動で、市役所より図書館に参りました。

図書館勤務は、市役所に入庁してから、初めてとなります。

窓口業務や、返却された本を書架に戻す方法など、わからないことばかりで、毎日、職員のみなさんに指導していただいています。

当館の職員は、みんなやさしくて親切です。みなさんもわからないことや聞きたいことがあったら、気軽に声をかけてください。

私も早く仕事をおぼえて、ひとりでもお客様の対応ができるように、努めてまいります。がんばりますので、今後ともよろしくおねがいします。

5月11日には、バードウォッチングが行なわれました。図書館の周りに、多くの鳥がいて、驚きました。

次回は、

日時：7月13日（日）午前10時～11時30分

場所：図書館前ウォーキングロード

※雨天時は図書館2階ひだまり交流テラスで実施します

申込：事前申込不要。直接会場へお越しください（時間内途中参加可です）

私も一生懸命、観察がんばります！！

図書館長

《 図書館カレンダー 》 ■ = 休館日です。

★ 開館時間：午前9時30分～午後6時 ★

🌧️ 2025年6月 🌧️

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

🦀 7月 🦀

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

★ YABOOKご紹介 ★

『純喫茶クライ 地図にないお店』

児童書 913ヨ 吉田桃子 / 作 岩崎書店



「ジャケ買い」とはこのことを言うのでしょうか…。

まずはその表紙に惹かれた。それはそれはおいしそうなおプリンアラモード。そこにちょこん とこしかけてる女の人がかわいい。「純喫茶」という文字と背景の明るすぎない赤色がレトロ感満載だ。ちょっとコミカルでほのぼのするような日常のおはなしを想像して手に取ったが、内容はすこし切実だ。

誰でも一つや二つ、不安や悲しみ、迷いなどをもっているのではないのでしょうか。ひとりのときに考え込んでいたとしても、外に出たらギュッと心に押し込め何ともないフリをして一日を過ごす。しかし、押し込めても押し込めてもどんどん大きくなって、とうとうあふれでてしまいそうになったとき、「純喫茶クライ」の看板が現れ導かれる。地下におりると、きれいなステンドグラスの壁、ショーケース、その先には木の枠でできた扉。中には「マスターさん」がいて、お店にたどりついた子供は少し不思議な体験をします。

お父さんとお母さんにけんかしてほしい。けんかを全力阻止する実利果（みりか）のおはなし（「なみだのミルクケーキ～ごきげんとりには要注意～」）他4編。

不安や悲しみ、迷いでいっぱいになったとき、心を立て直すヒントになりますように。

by チョビコ

図書館員のひとりごと

ぜひ読んでほしい！！

～イギリスの生んだ骨太の作家 ロバート・ウエストール～

五月の連休中にロバート・ウエストールの『猫の帰還』を読みました。🐱

ウエストールは大好きな作家の一人なので、ほとんど読んでいるのですが、この本は読んでいませんでした。どうしてかなあ…、と考えると、表紙に大きく黒猫が描かれている装丁で、動物の物語…と思っていたせいかもしれません。この作品は評価が高いと知りながら、読まないまま月日が経っていましたが、先日ふと目について、早速読んでみました。

さて、読み終わった感想は、「は～、さすがウエストール！！」（詳しくはぜひ、お読みください）という一言につきました。原題は『Blitzcat』です。”Blitz”とは「電撃」という意味で、さらに、第二次世界大戦のドイツ軍のロンドン爆撃の意味もあるということです。物語の内容と照らし合わせて深く納得です。第二次世界大戦中のイギリスを背景に、ロード・ゴードという司令官の名前を持った猫の物語なのですが、夢中になって一気に読みました。

これだけの厚みを持った作品は、これから先、何年経っても魅力を失わない物語と言えるでしょう。余談ですが、宮崎駿（みやざきはやお）監督もロバート・ウエストールが大好きで、『ブラッカムの爆撃機』に自らのイラストを描き下ろしています。

ちょっと噛み応え（かみごたえ）のある本に挑戦してみませんか？（挑戦してほしい!!）

by ロザモンド



◇『アマゾンのふしぎな森へようこそ!』

児童書 296ミ 南 研子 / 著 合同出版

日本から遠く離れたアマゾンの森で暮らす先住民。便利な？スマホも楽しい？ゲームもありません。そのかわり、私たちの社会で起こっている様々な問題や恐ろしい事件などありません。彼らはただ自然の一部として、あるがままに楽しく心地よく日々を生きているだけです。何もなくても生きられること、むしろそれが幸せであること、そして私たちが忘れてしまっている大切なことを伝えてくれる本です。

by うなな

◇『プラスチックの逆襲』

一般書 519ミ 水野 玲子 / 著 高文研



プラスチックのはじまりは、1860年代アメリカで発明された「セルロイド」が始まりです。野口雨情の「青い眼の人形」の歌詞の中にアメリカ生まれのセルロイドとあるくらいです。プラスチックは第二次世界大戦で不足した金属の代用として需要が高まり、戦後はその便利さから日用品の多くをプラスチック製品が占めるようになりました、それによりここ70年ではその生産は200倍以上に膨れ上がりました。著者はプラスチックから溶け出す有害物質の人体への影響やマイクロプラスチックの問題を取りあげ、減プラ生活を推奨しています。あらためてもう一度、自分の生活を見直すいい機会かもしれません。

by 左利き



◇『咲かせよう!世界のフェスティバル』

児童書 793ユ 結来月 ひろは / 作 miii / 絵 華道家元池坊 / 監修 講談社

ふうこ
楓子は小学校5年生。二学期からクラブ活動をするようになっていたが、運動も手先も器用じゃないので、どこのクラブに入るか悩んでいました。そんな時、6年生の桜川君が、教室の前に花を飾るのを見て気になり後をついていくと、そこには華道クラブと書いた貼り紙がありました。そして、すすめられるがままに花を生けてみます。

華道のはじまりから、花の組み合わせ、ハサミの使い方、花器選びなど教わりながら花を生けてみると、これまでに感じたことがないくらい胸がドキドキし、気づけば華道クラブに入ることに。読んでみて、華道って、堅苦しいイメージをもっていたのですが、意外にシンプルで身近に感じられました。物語を通して理解を深める「おはなし日本文化」シリーズ、おすすめの一冊です。

by くるみとみるく

◇『どうせあの世にゃ持ってけないんだから』

一般書 159ワ 和田 秀樹 / 著 SBクリエイティブ



「後悔せずに死にたいならお金を使い切れ!」ということをいろいろな角度から書いた『和田秀樹節炸裂!』の本です。

そこまではちょっと…と思われる方もいらっしゃると思いますが、お医者さんが言っているのだからすべて正しいということだけでなく、「そういう考え方もあるんだな」くらいの気持ちで、エッセーでも読んでいのように楽しんでいただけたらと思います。

by 博覧会

「おはなし会」のお知らせ

図書館おはなし会

6月4日(水)・11日・18日(水)
午前10時～10時30分

エプロンひろ子さんのエプロンシアター

6月6日(金) 午前10時30分～11時

しゃぼん玉〇英語のおはなし会

6月7日(土) 午前11時～11時30分

クーミンの英語のおはなし会

6月15日(日) 午前11時～11時30分

ぽっぽのおはなし会

6月25日(水) 午前10時～11時

すべて参加自由・無料です
1階絵本コーナーにきてね!



☆ボードゲームで遊ぼう☆

日時：令和7年7月6日(日)

午前の部 10時～11時30分(開場9時45分)

午後の部 13時30分～16時(開場13時15分)

場所：図書館 2F会議室

定員：各部30人程度

講師：大森 佑樹氏

参加対象者：どなたでも参加できます。当日会場へ直接お越しください

国内外のボードゲームにチャレンジ!ぜひご参加ください(^_^)/~

— 6月の企画展示紹介 —

1階企画展示

あめのひランラン

2階企画展示

昭和遺産

～昭和を訪ね未来(いま)を想う～

カフェ前展示

赤と黒

(ルージュ&ノワール)